北海道百年記念広場（仮称）の整備等に関する説明会（第１回）【議事録】

日時：令和４年２月９日（水）19:00～20:30
場所：環境生活部１号会議室（ZOOM）

１．開会（挨拶：環境生活部文化局長）

２．説明項目（説明：環境生活部文化局文化振興課長）

（１）交流空間構想の策定に至る経緯について

「（１）百年記念施設の主な沿革」についてでございます。百年記念施設につきましては、「北海道博物館」、「北海道開拓の村」、「北海道百年記念塔」がございます。博物館と百年記念塔は昭和４５年に完成、開拓の村につきましては昭和５７年に完成をし、それぞれ翌年から一般公開をしております。

「（２）北海道１５０年に向けて」について、平成２９年１１月に策定した「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」についてでございます。道では、平成３０年に北海道１５０年の節目を迎えるにあたりまして、平成２８年１０月以降、有識者の方々による懇談会を開催をいたしました。百年記念施設を、今後の５０年、１００年先をも展望しながら、次の世代にどのように引き継いでいくのが相応しいかを検討し、今後の議論の方向性をまとめました。その中で、エリア全体の「今後の方向性」は、「施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めた空間として捉え、自然・歴史・文化体感交流空間として再生を目指す」こととし、

・博物館は、「本道の中核的博物館、道民参加型博物館としての機能の充実、魅力向上」を図って参ります。
・また、開拓の村につきましては、「訪日外国人の受入対策の強化」や「民間資金・活力の導入可能性の検討」や「代替素材を活用した修繕手法の導入検討」を行うこととしております。
・百年記念塔及び記念塔前広場につきましては、「安全性や将来世代の負担軽減、周辺施設との関連など、様々な観点から引き続き検討」を行うとともに、「新たなモニュメントの設置など、本道の歴史に対する思いを引き継ぐ手法も検討」することといたしたところでございます。

こちらの考え方におきまして、道民、専門家の方々の意見聴取などを行っております。具体的には、

・住民の皆様等を対象といたしましたアンケートの実施
・道民ワークショップの開催
・大学への出前講座
・専門家ヒアリングの実施

などを通じまして、道民の皆様や地域の関係団体、専門家の方々から幅広くご意見を伺った中で、平成３０年９月に交流空間構想の素案を策定・公表し、パブリックコメントを経て決定をいたしたところでございます。

続いて、平成３０年１２月に策定した「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」についてご説明をいたします。

道では、百年記念施設に自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を歴史、文化、自然を体感し、交流できる空間として再生をし、次世代に伝えていくため、構想を取りまとめ、その実現に向けて、着手可能なものから順次取り組んでいくこととしているところでございます。エリア全体の「今後の方向性」につきましては、「大都市近郊に残された野幌森林公園の豊かな自然環境をフ

ィールドに訪れる利用者の皆様が、北海道の歴史や文化、自然を五感で「体感」し、交流できる賑わいのある持続可能な空間を目指す」ことといたしまして、

・博物館につきましては、「更なる魅力向上」に努める

・開拓の村につきましては、「観光拠点や古民家再生等人材育成拠点としての活用を図る」

ということといたしているところでございます。

百年記念塔、記念塔前広場でございます。

・「記念塔は利用者の安全確保や将来世代の負担軽減等の観点から、解体もやむを得ないと判断し、その跡地には、新たなモニュメントを設置すること」、「周辺広場は、広く開放された交流空間とするため、利用規制の緩和に向けて検討を行うとともに、施設の安全性向上に努める」ことといたしております。

・また、後ほど詳しくご説明いたしますけれども、新たに設置するモニュメントにつきましては、「はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担う」ことをコンセプトといたしているところでございます。

また、５０年後の道民に引き継ぐ思いとして、多くの人たちの労苦と知恵とチャレンジ精神によって築かれてきた北海道。先人に学び、感謝しながら、私たちは北海道への思いを次代へとバトンタッチをしていきます。世界のどこにも例のない、北の大地の歴史と文化と自然。その素晴らしい価値を、広く、深く伝えながらさらに創造していきます。ということで取りまとめさせていただいているところでございます。

こちらの「交流空間構想」の実現に向けまして具体的に推進をするため、エリア全体を「文化観光、食」による賑わいですとか、「地域、道民」への還元といった視点から検討し、令和３年１月に野幌森林公園エリアの活用の方向性を策定いたしました。

エリア全体としては、キャッシュレス化や多言語化など「利便性の向上」を図るとともに、ＳＮＳの活用など「情報発信の強化」や「施設の充実」、「アクセスの向上」などに取り組むこととしてるところでございます。

また、博物館においては、「ミュージアムショップの充実」を図るとともに、ＡＲ、ＶＲの導入など「新たな楽しみ方、展示方法の提供」について取り組むこととしております。

開拓の村につきましては、イベント開催やガイドの充実など「利用者が楽しめる機会の充実」を図るとともに、映画撮影の活用など「民間事業者への開放」も進めてまいりたいと考えております。

百年記念塔につきましては、「メモリアルモデルの制作」や「思い出・記録の承継」、また、「新たなモニュメントの設置」や「既存レリーフの活用」に取り組むこととしております。

百年記念広場の整備につきましては、後ほど詳しくご説明致しますが、ご覧の項目につきまして、取り組んでまいるところでございます。

（２）百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

はじめに、記念塔の概要について記載をさせていただいております。

設置目的は、「本道の発展に尽くした有名無名のすべての先人に対する感謝の心と、北海道の輝く未来を創造する決意と躍進北海道の姿を力強く象徴するもの」となっております。

沿革は、ご覧のとおりでございまして、現在、平成２６年７月より立入禁止となっているところでございます。

また、規模は、高さ１００ｍ、外装材として、無塗装の耐候性高張力鋼板－いわゆるコールテン鋼－を用いて建設され、建設費は、４億９，３６８万円。このうち約半分が企業や団体、道民の方々からの寄附金となっているところでございます。

次に、記念塔の維持管理についてでございます。

昭和４５年の完成から１０年を経過した昭和５５年以降、概ね１０年ごとに建築分野等の専門家の方々による塔の現況調査を実施をいたしまして、修繕など対応すべき事項と費用をお示しをした１０年間の保守管理計画を策定した上で、老朽化した箇所の修繕ですとか、改修工事を計画的に実施してきたところでございます。

調査、報告につきましては、その点線の中に書いているとおりでございます。

また平成８年には、塔周辺の地上部で、錆片の剥離・落下が確認されたことから、平成９年に塔の現況調査を行いまして、調査結果に基づき、平成１１年度に大規模な改修工事を実施したところでございます。

平成２８年度までの補修費等の合計につきましては、８億６，２０３万５千円となっておりまして、このうちの２億３００万円余が、平成４年度に実施した塔内部の大規模改修費、３億４，５００万円余が、平成１１年度に実施した塔外部の大規模改修費となっているところでございます。

次に、百年記念塔の現状につきまして、本年度実施した設計・施工の専門業者による調査結果につきまして、ご説明をさせていただきます。

主体鉄骨部、いわゆる内部の骨組みにあたる部分につきましては、これまで１０年サイクルで修繕等を実施してきたことから、著しい損耗は見受けられない状況となっております。

続きまして、外板部でございます。

外板部に使用されている耐候性高張力鋼板につきましては、無塗装で数年間かけて表面に密で硬い酸化皮膜、いわゆる安定錆が形成され、腐食の進行が防止される特徴がございます。安定錆の形成につきましては表面が外気にさらされ、適度な乾燥と湿気が繰り返されて、風雨によって表面に浮いた錆が洗い落とされることが条件となっております。外板の表面には、安定錆が形成されているという状況であります。太字でお示ししさせていただいておりますけども、問題点は、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所での錆の進行でトラブルが発生しているというところでございます。外板と縁アングルの接合面などに顕著な錆の発生が認められ、特に接合面の錆は、外板の変形や溶接部の破断を伴いまして、更に進行すれば、外板の剥離、落下を招く危険性があるという指摘がされているところでございます。防止策として、順次補強してきましてが、新たな箇所で穴あきが確認されるなど、前回の調査以降、錆や腐食が進んでおり、振動や衝撃が加わった場合には、部材が落下する可能性が認められる状況と指摘を受けているところであります。

続きまして、エレベーター部は、耐用年数を経過しており、早急に更新が求められる状況でございます。また、階段部は、部分的な劣化が進んでいる箇所はあるが、著しい破損等は見受けられない状況、内部排水部につきましては、良好な環境にある。

またその他の部位といたしまして、電気ケーブルやボックス、外構部におきましては改善が必要な状況にあると示されたところでございます。

道では、百年記念塔の保存・活用に向けまして、建築の分野をはじめ専門家の方々から、ご意

見を伺い、様々な観点から検討を重ねてまいりました。塔の外板の穴あきや波打ち、錆片の落下につきましては、専門家の方々の知見によりますと、主に雨水の塔内部への浸入ですとか、雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されているところでございます。塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至り、錆片などの落下が続く中、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断いたしました。安全性に関する専門家の方々のご意見について、ご説明をいたします。

まず、日本建築学会北海道支部に調査委託した平成９年の外板補修調査報告書から抜粋したものでございます。「外板の錆の要因」といたしまして、耐候性高張力鋼板の特色に係る記載内容は、先ほどご説明したとおりでございます。この塔の場合、外板表面、裏面とも若干の色の差はあるものの全般的には安定錆が形成されていると言える。問題点は、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所での錆の進行で、米国と異なり高温多雨の我が国ではこの点のトラブルが発生し易い条件にある。

この弱点を誘因する環境が、外板と縁アングルの接合面に顕著な層状錆として現れたことである。このまま放置すれば錆は成長し続け、錆片落下という深刻な状態になりかねない。緊急の錆対策が必要であるが、錆発生の要因である水分の滞留を排除しない限り、根本の解決にはならない。しかし、そのために現状の接合状態を改善することは多くの問題を抱えている。とされているところでございます。こちらの「錆の落下防止対策」につきましては、雨水の滞留の要因となっている外板と縁アングルとの接触面を離すこと、または外板のへこんだ部分を無くすることが有効と思われるが、現状の状態で、この改修を行うことは、全面貼り替え案、こちら当時で１７億円と示されておりましたが、こちらに近い費用を要する。そこで本報告書では、次善の策として錆の落下防止を主目的に物理的に進行錆を落とし、今後の錆の進行を遅延させるため、浸透性の防錆塗料を塗布する案を提案したということでございます。

最後に「今後の問題点」といたしまして、「本体鉄骨の健全性、及び外板の主要部分の安定錆の状態を考えると、継続的な保守管理をすれば、今後とも長期にわたって存続することが期待できるとされているところでございます。一方、問題は、外板周辺部の錆の進行とその剥落であり、その程度を軽減する処置はとれるにしても完全に防止することは困難である。完全に錆の発生や剥落を除去するには、塔全面の外板を取り替えざるを得ないが、相当な費用を要する」と示されているところでございます。

また、専門コンサルによる調査結果におきましては、「ただちに倒壊する危険性はないものの、原状復帰した場合においても、今後、部材の腐食等による不測の落下事故を完全に防ぐことは、物理的にも不可能に近いことから、対策として、立入禁止エリアの設定、落下事故防止用屋根付き通路が必要」とされているところでございます。

また、外板の素材メーカーによる調査結果につきましては、「特定箇所に、外板パネルの穴あき、波打ち、錆片の落下が確認される。これらは、主に雨水の塔内部への浸入と雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定。」これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。」　と示されたところでございます。

続いて、将来世代の負担について、ご説明いたします。

道では、平成２９年度及び本年度に、今後５０年間に想定される維持管理経費について、設計・施工の専門業者に調査委託を行ったところでございます。本年度実施した調査結果の概要につきましてご説明させていただきます。

まず、「展望室への立入を可能とする場合」と「モニュメントとして維持する場合」の金額をそれぞれお示ししているところでございます。

「早期に措置すべき経費」につきましては、「飛来防止通路の整備」や「見学エリア内装改修」

などの必要な経費につきまして、

・展望室への立入を可能とする場合は、１億２，４７９万円、

・モニュメントとして維持する場合は、１，８２９万円となっており、

また、「経常的に措置すべき経費」につきましては、５年サイクル、１０年サイクルで実施する経費の合計額は、

・展望室への立入を可能とする場合は、年間１，３０７万円、

・モニュメントとして維持する場合は、年間１，１６４万円が必要となっているところでございます。

続いて、大規模改修経費について、ご説明いたします。

過去の大規模改修の実施時期につきましては、表に記載しておりますが、外部大規模改修は、塔が完成してから２９年目の平成１１年度に、内部大規模改修は、塔が完成してから２２年目の平成４年度に実施をしているところでございます。

こちらを受けまして、今後の大規模改修の実施時期とサイクルにつきましては、「前回の改修時期」と「経年劣化による腐食の進行具合」などを考慮をいたしまして、外部改修につきましては令和４年度から２０年ごと、内部改修につきましては令和５年度から２０年ごとに実施するものと算定しているところでございます。

また、経費につきましては、前回の大規模改修の内容を参考に、現状の労務・資材単価を基に算定されているところでございます。

こちらの結果といたしましては、

・左下の表、外部大規模改修経費でございまして、税抜き価格で４億４，２００万円、

・右下の表、内部大規模改修経費につきましては、税抜き価格で２億６，６５０万円となっているところでございます。

ただいま、申し上げました、「大規模改修経費」や「経常的に措置すべき経費」などを反映をいたしました、

年次別の金額の推移は、表で表させていただいております。

・左側が、展望室への立入を可能とする場合

・右側が、モニュメントとして維持する場合

となっておりまして、初年度及び２年度目に、外部・内部の大規模改修経費がかかりまして、その後は、毎年１千万円強の維持管理経費が続き、これが２０年サイクルで繰り返されるものというふうに試算をされているところでございます。

続きまして「（６）保存方法の検討について」でございます。

百年記念塔のあり方につきましては、様々な観点から検討を行ってきたとご説明してきましたが、幅広くご意見を伺う中で、「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」また、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」につきまして、ご意見をいただきましたことから、これらにつきましても、検討を行ってまいりました。「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」につきましては、本来の記念塔の姿をとどめていないことに加えまして、多額の経費が必要となること、また、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」につきましては、立入禁止エリアを拡げても、公園を利用される方々の安全確保が難しいことから、採用はいたさなかったところでございます。

（３）百年記念広場（仮称）の整備について

まず、記念塔の解体工事費についてですが、実施設計の結果、概算で約７億２，０００万円となりましたが、今後、解体跡地に新たなモニュメントの設置や広場の整備を予定していることを踏まえ、工事内容や金額の精査を行っているところでございます。

次に、新たなモニュメントについてですが、記念塔を解体した跡地には、新たなモニュメントを設置することといたしております。

記念塔に替わるもモニュメントにつきましては、先ほど申したコンセプトのもと、将来の北海道を象徴する役割を担うものといたしております。また、既存のレリーフや解体材の有効活用を検討するほか、耐久性や今後の維持経費にも配慮することといたしております。

これらの考え方に基づきまして、より多くの方々からご提案をいただきながら、新たなモニュメントを囲む広場とともに、道民の皆様に親しまれる存在となるよう、今後、具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、「百年記念広場整備事業について」でございます。

１ページ目は、これまでご説明してきた内容と重複いたしますので、説明は省略させていただきます。

真ん中の「イメージ図」をご覧ください。

記念塔周辺の広場について、交流空間構想でお示しした方向性ですとか、道民の皆様から寄せられたアイディアを基に作成したものでございます。

左上の六角形の部分が、現在、記念塔が建っている箇所、右下が、駐車場、正面広場となっています。

まず、赤い矢印でお示ししておりますけども、こちらの「百年記念広場」を入口に、博物館や開拓の村、埋蔵文化財センターと人々が行き来し、各施設に賑わいを広げようと考えているところでございます。

また、百年記念広場につきましては、茶色の点線で囲んでおります、

現在の「百年記念塔の跡地」と「大地の手の広場」を「歴史・文化 体感・交流エリア」といたしまして、北海道の歴史・文化や幾多の先人に思いをはせる場所として整備することとし、左側に整備内容等として記載しております。上には、モニュメントにつきまして、未来志向に立った将来の北海道の象徴として「新たなモニュメントを設置」するということ。また、下には「大地の手の広場」につきまして記載をしておりますが、建造の精神を継承することとし、老朽化防止のため屋根を設置するとともに、周辺の電力需要を賄うため、太陽光発電の設置について、検討を進めてまいる考えでございます。

また、黄色の点線で囲んでいる部分につきましては、「自然 体感・賑わい創出エリア」として、右側に記載しておりますが、スキーやグランピング、パークゴルフやドッグランなど動物たちとのふれあいやシーン・四季を通じた体験・遊びの場の提供を行うとともに、噴水や水辺の創作、桜の植樹など草花による彩りの創出、キッチンカーによる飲食物の提供や、ファーマーズマーケットの開催など、民間の知恵や活力も活用しながら、賑わいの創出を図っていこうと考えているところでございます。

続いて、広場の整備スケジュールについてでございます。

記念塔の解体につきましては、今年度、実施設計を行ったところでございますが、来年度、解体工事に着手をした場合、工事に要する期間は、令和６年度の前半までとなる見込みとなっております。

こちらの工事スケジュールを踏まえまして、新たなモニュメントの設置を含みます広場整備につきましては、来年度、事業手法に関するサウンディングの実施などを行って、整備概要を作成し、令和５年度に事業計画等の策定、令和６年度の記念塔の解体工事終了後に、広場の整備に着手するというスケジュールを予定としているところでございます。これらの整備に必要な財源につきまし

ては、国の支援ですとか、補助制度、ＰＦＩ、クラウドファンディングなど民間の資金・ノウハウなどを最大限活用するとともに、今後の維持経費にも十分に配慮した上で、整備を進めたいと考えております。

３．質疑応答（質問：チャット、回答：口頭（環境生活部文化局文化振興課長））
※口頭による回答順に掲載

新たなモニュメントについて「お互いの多様性を認め合う共生の立場」とあるが、お互いとは誰のことを想定しているのか。
また、百年記念塔は、先達に感謝するために建造されたものであり、先達と今を生きる私たちという意味であれば多様性は無関係であり、道が想定した相手は誰なのか。

新たなモニュメントに関しまして、誰を想定しているのかというご質問でございますが、交流空間構想におきましては、異なる世代ですとか様々な国や民族、障がいの有無などに関わらず、訪れる利用者の方々すべてを想定しているところでございます。

記念塔は外板で覆われていると思いますが、平成２８年９月及び平成３０年９月に発見された落下物（水切板）などは、外板を突き破って落下したのですか。

平成３０年９月の台風により落下した部材は、コールテン鋼の水切板を覆うため、平成４年頃に設置したステンレス製の部材でございまして、落下原因につきましては、施工業者の調査結果によると、落下した部材の下地となっているコールテン鋼の水切板、こちらの腐食が進行し、部材を固定しているビスが濡れた事が原因とされてますので、外板を突き破って落下したというものではございません。

解体工事費を、７億２，０００万円と説明をされておりますが、議会で承認されているものとは異なる。寄せられている意見や、質問と併せて、議会議論を実施することを予定はしていないのか。

先ほどご説明させていただきました、記念塔の解体工事に係る工事費７億２，０００万円についてでございますが、これは、今般行いました実施設計の結果でございまして、昨年１１月に道議会の環境生活委員会にてご報告申し上げたところでございます。
こちらの金額につきましては、ただいま、工事内容ですとか金額を精査をしているところでございまして、今後、予算計上する場合は、道議会に予算を提案させていただくという流れになっているところでございます。

解体後のモニュメントについてであるが、設置目的に見合った計画を道民に示さずに解体が先行することは順序が違うのではないでしょうか。

新たなモニュメントの検討にあたりましては、先ほどご説明させていただきましたスケジュールのとおり、百年記念塔の解体工事のスケジュールも踏まえながら、同時並行的に検討を進めさせていただくこととしているところでございます。
新たなモニュメントにつきましては、構想でお示ししたコンセプトはもとより、耐久性や維持経費などにも配慮した上で、今後様々な手法を通じてより多くの方からご提案を頂きながら具体像を決め、記念塔解体後に広場整備とともに着手をして参りたいと考えているところでございます。

専門家も基本骨格は健全と評価しているのならば、危険と称する外板を撤去し、骨格をモニュメントとして残す選択もあるのでは。この選択を検討した経緯はあるのでしょうか。

道では、先ほども申し上げましたとおり、専門家の方々の知見も伺いながら、構想でお示しをしております、「展望室への立ち入りを可能とする場合」や「モニュメントとして維持する場合」に加え、「外壁の素材を変更する方法」、また、「外壁をはがして骨格だけをモニュメントとして残すという方法」につきましても検討した経緯がございます。

ただし、こちらにつきましては、現在の記念塔の姿を大きく変えるものになるため、設計者の方のご意見なども伺ったところ、姿を大きく変えることは望ましくないとのご意見もございましたことから、採択しなかったところでございます。

将来世代への負担を強調しておられるが、１００年記念塔は今後５０年の維持管理経費の数値を出し、新モニュメントに関しては建設をする時に発生する経費だけの数値を出すのは公正とは言えません。比較をするなら新モニュメントプラス新モニュメントの５０年の維持コストを算出しなければならないのではありませんか。

記念塔につきましては、１００年記念事業の一環として整備された施設でございまして、道では今後の５０年、１００年先も展望しながら次の世代にどのように引き継いでいくのがふさわしいかを検討する上で、今後５０年間の維持管理経費を算定をしたところでございます。

新モニュメントの建設にあたりましては、今お示しをしている今後５０年間の維持管理経費を上回らないよう、耐久性、維持コストなどにも十分に配慮し、道民の皆様方から幅広くご意見を伺った上で、新モニュメントや広場整備の内容を決定をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。

スケジュールではモニュメントの形が決定後に解体を着手ということですね。

先ほどお示しをした整備スケジュールに従いまして、新たなモニュメント及び広場整備につきましては、道民の方々から幅広くご意見・ご提案をいただきながら、解体工事と並行して進めてまいりたいと考えているところでございます。

単純な疑問です。危険性について説明では相当逼迫をしている。今すぐにでも危険が生じると感じる。しかしその割に現在の安全対策はほとんどロープ、これで立ち入りを禁止しているだけですよね。それで大丈夫なら解体の一番の理由にするのは無理がありませんか。

専門家の方々によります記念塔の現況調査結果におきましては、先ほど申しましたとおり、外板部の水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所で錆が進行し、錆片の落下等のトラブルが発生しているところでございます。

平成３０年９月の台風による部材の落下や、昨年の強風により、外板の一部が剥離をするなどが続いている現状を踏まえますと危険性が増していると認識をしているところでございます。

今後５０年の維持管理経費は想定です。せっかく完成からおおむね１０年毎に詳細な点検を行ってきたのだから点検の都度、方向性を議論する方がコスト算出が客観的ではないでしょうか。

今後５０年の維持管理経費につきましては、これまでの大規模改修の内容や、経常的に実施してきた修繕の内容を踏まえるとともに、現在の塔の現状も鑑み、設計・施工の専門業者におきまして算出をされたものでございまして、現時点で見込まれるものと御理解いただければと思います。

新モニュメントに対し、住民から幅広い意見を聞くとおっしゃいましたが、解体について住民から幅広い意見を聞いているとお思いですか。

道におきましては、交流空間構想の策定にあたり、道民の皆様や地域の関係団体の方から幅広くご意見を伺うこととしておりました。住民を対象としたアンケートの実施や、対象を限らず募集をさせていただいた道民ワークショップにおいて､解体についてご説明をさせていただいております。

また、地元の方々に対しましては、交流空間構想の素案を策定した平成３０年度に、地元の町内会連合会や自治会連絡協議会の役員の方々とも直接お会いをして、記念塔の解体もやむを得ないと判断した道の考え方を含め、交流空間構想の内容をご説明させていただいております。

また、令和２年度におきましても、野幌森林公園エリアの活用の方向性の策定にあたり、その内容につきましてご説明をし、整備内容につきましてご希望を伺ってきたところでございます。

外板老朽による危険性を解体理由の一つとしているが、立入禁止とした平成２６年から立入禁止エリアの設定方法が極めて安易なことや、補修等の維持費用が計上されない年度が数年あることは不自然ではないでしょうか。

維持管理経費などについてですが､道におきましては､昭和５５年以降専門家の方々に骨組みや、外板、排水系統における錆の発生状況など、記念塔の概況につきまして概ね１０年ごとに調査を依頼し、保守管理計画を策定して修繕を行ってきているところでございます。道の維持管理につきまして、例えば、平成２３年の調査報告書の中では、塔の内外部は平成１１年の大規模改修により良好な状態を維持しているという評価もいただいているところでございます。

道といたしましては、設計・施工の専門業者などの調査結果に基づきまして、計画的に修繕・改修工事を行うこととし、毎年度、維持管理経費や大規模改修に必要な予算を措置してきたところでございます。

設計屋の意見を聴いて骨格モニュメント案排除ならば、モニュメントについても設計者の意見に従うのでしょうか。

現行の記念塔につきましては、安全性の観点などから、解体もやむを得ないと判断させていただいたところでございます。

新たに設置するモニュメントにつきましては、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものといたしまして、耐久性や今後の維持管理にも配慮をしながら、幅広くデザインの提案を受けられる方法などについて採用し、皆様のご意見を反映していきたいと考えているところでございます。

建設費は当時約半額が寄附でありその寄附をした道民の現在の年齢は８０歳を過ぎていてこの様なオンラインでおこなう事自体無理があると思います。コロナ禍だからこそ延期して改めてすべきではないか。解体ありきでコロナ禍を利用したオンライン説明としか思えないので寄附をした道民に再度対面で説明できないか。

当初は、対面での説明会の開催を予定していましたが、コロナの感染状況を鑑みまして、今回、オンラインで説明会を開催させていただいたところです。説明会は、今日から３回にわたって開催をさせていただきますが、説明会の参加状況や参加希望、コロナの感染拡大状況なども踏まえまして、今後、開催方法につきまして、検討してまいりたいと考えております。

解体材料をモニュメントに使用するという案もあるようですが、この案を実行する場合には案が決まらなければ安易に解体できないのではないでしょうか。

新たなモニュメントにつきましては、皆様方からのご意見を伺うなどして、具体的な内容について決めてまいりたいと考えてございます。解体材の活用につきましても、どのような形で、モニュメントに使うのか、またその周辺に使うのかということも含めまして、幅広く検討してまいりたいと考えているところでございます。

いずれにいたしましても、今後、新たなモニュメントにつきましては、広場とともに道民の皆様に親しまれる存在となるよう､新たなモニュメントの製作にあたっての諸条件などにつきましては、早急に検討し、お示ししてまいりたいと考えております。

新たなモニュメント設置及び周辺整備計画を含めた予算と現在の１００年記念塔を修繕して周辺整備を行った場合のイニシャル並びにランニングコストの比較はしたのでしょうか。

現在の百年記念塔を修繕した場合の金額につきましては、先ほどの資料の中で、表でお示ししたとおりでございます。

また、新たなモニュメントの設置及び広場整備につきましては、その内容につきまして、民間からのご提案や道民の皆様からのご意見を踏まえ、令和４年度にも決定してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

疑問や質問がある分だけ解体を形式で則って着々と進めるだけが行政の役目とは思えません。立ち止まり、多くの知見を取り入れて進める勇気がこの北海道を世界に誇れる新しい大地と考え直す方がよほど道民のためになるのでは。

記念塔のあり方の検討にあたりましては､様々な分野の専門家や有識者のご意見を伺うとともに、道民の皆様から寄せられたご意見を踏まえまして、十分に時間をかけて慎重に検討を重ねてきたところでございます。その上で交流空間構想の案を策定いたしまして、パブリックコメントを経るとともに、道議会でも多くのご議論をいただき、決定させていただいた経緯がございます。

記念塔の解体に関する方々の思いですとか、様々なご意見につきましては、真摯に受け止めた上で、道の考え方をご理解いただけるよう今後とも努めてまいります。

北海道の説明は住民、設計者の井口先生の意見も伺っていないことがよくわかりました。記念塔自体がすでに文化財として重要な物になっていることも触れられていないなど、茶番にすぎない説明だと思います。いかがでしょうか。

また、設計者の意見をまったく伝えないのはなぜでしょうか。

まず、設計者の井口様に対しましては、記念塔の現状や議論の経過を丁寧に説明するとともに、塔のあり方の検討にあたりましては、ご意見を伺うことが必要と考え、平成２９年以降、直接お会いし、ご意見を伺うとともに、記念塔内部の現状もご覧いただいたという経緯がございます。

井口様からは、記念塔の今後のあり方に関し、形状を大幅に変更する残し方は容認できないということ、また、モニュメントとして自然に委ねるのが本来の姿であるなどのご意見を伺うとともに、塔の防水対策の難しさなどについても、ご意見を頂戴したところでございます。

また、文化財として重要な物になっていることも触れられていないというご質問でございます。

道では、記念塔のあり方を検討するにあたり、懇談会の有識者の方から文化財としての価値についてご意見が出されたことから、記念塔を文化資源として保存・活用する可能性についても検討を重ねてきたところでございます。また、様々な記念塔の残し方についても、検討いたしました。

記念塔に関しましては、その歴史的価値は否定しないものの、公園を利用される方々の安全確保の観点から保存活用することは難しく、解体もやむを得ないと判断させていただいたところでございます。

寄附をなさった方々は、百年記念塔ですから当然百年間以上の維持管理を考えて寄附をしてくださったはずです。それを努力をせずに危ないから壊しますとは、北海道の寄附金詐欺のようなものであり、北海道民の資質が疑われます。寄附をなさった方々の把握とお詫びはどのようになさるのでしょうか。

百年記念塔の建設にあたりましては、経済団体などで構成する建設期成会が構成され、広く寄附を募った結果、建設費約５億円の半分にあたる約２億６千万円の寄附をいただいたところでございます。寄付の内訳は大部分が経済団体ですとか道内の自治体からの寄附金でございますが、町内会ですとか、募金箱により個人の方々からも約１千万円の寄附があったところであります。

道民の皆様に対しましては、百年記念塔のあり方に関する議論の経過や、解体の判断に至った考え方について公表し、お示しさせていただいているところでございます。

道といたしましては、地元住民の皆様の思いを受け止め、これまでも丁寧に説明を行ってきたところでございますが、改めて道の考え方について、説明会で説明を行うなどし、道民の皆様にご理解いただけるよう努めてまいります。

本日の説明会での質疑応答は参加者にデータとして提供していただけますか。

冒頭で申し上げましたとおり、質疑応答も含めた議事録については、後日道のホームページに概要を公表してまいります。

今の説明ですと今後の展開についてのコストと塔を維持するコストの比較がないと解体には着手されるのは他の方がおしゃった通り解体ありきにしか見えないと思いますがいかがでしょうか。

道では、これまで専門家の方々の知見も伺いながら、記念塔のあり方について検討してまいりました。安全性の考え方、専門家の方々の知見については先ほどご説明したとおりでございます。

また、今後、記念塔を維持する場合のコストにつきまして、今後５０年にわたる年次別の金額については、資料でお示しをしたとおりでございます。

今後の新たなモニュメントや広場の整備に要する経費につきましては、現行の維持管理コストの状況も踏まえつつ、皆様方からモニュメントや広場の整備の内容につきましてご意見を伺い、最大限民間の活力、資金などを活用することといたしております。

説明会の質疑応答は鈴木知事に報告されるのでしょうか。

いただいたご質問、ご意見につきましては、知事にも報告をしたいと考えています。

新しいモニュメントの予算はいくら計上されているのでしょうか。

整備スケジュールでお示しさせていただきましたが、広場やモニュメントに関しましては、ＰＦＩなども含めた事業手法に関して、民間から提案を受けるなどして進めることとしており、今後、民間等との役割分担なども検討した上で、具体的な整備内容、整備費などをお示ししていくこととなります。

まもなく説明会の終了時間となりますが、答えきれない部分の扱いを教えてください。

本日お答えできなかった質問に対する回答につきましては、後日回答を作成の上、道のホームページで公開してまいりたいと考えております。

確認させてください。時間内にご回答いただけなかった全ての質問の回答が後日、ホームページで見ることができる、という認識で間違いありませんか。

あと、未回答分の後日とはいつなのか時期を明示されてはいかがですか。例えば、３回目終了後１週間とか、もしくは、参加者に公開した旨をメールで知らせるとか。

時間内に回答できなかった質問につきましては、回答を作成し、ホームページにおいて公開をさせていただきたいと考えております。

また、時期につきましては、今回も含めて３回開催いたしますので、それぞれの回答ができしだい、公開してまいりたいと考えております。できる限り早く、１週間以内にとは考えておりますので、ご理解いただければと存じます。

全国各地にモニュメント、記念塔は多々あると思いますが、寡聞にして解体したという話は聞いたことがありません。道民の寄附を募り、コンペで選ばれ、道民の心に根付いた百年記念塔を何としても残していくのが道民の矜持であり、行政の役割だと思います。コストだけで判断して良いのでしょうか。

道では、専門家の方々の知見を伺いながら、記念塔の保存につきまして、検討を行ってきたところでございますが、安全性の確保を図ることが難しく、解体もやむを得ないと判断をしたところでございます。

また、資料の中でご説明させていただきましたが、完全に錆の発生を除去するためには外板もすべて張り替えて素材も変えなければならないといったこともございます。決してコストだけで判断したわけではなく、道としては、構造上、安全性を確保することが難しく解体もやむを得ないと判断させていただいたことにつきまして、ご理解をいただければと思います。

そもそも誰が最初に百年記念塔の解体の話を道議会に提案したのでしょうか。

差し支えなければその議員の名前と何故解体かの理由や内容も公表すべきではないでしょうか。

一度、全北海道民に百年記念塔の解体に賛成か反対かの二択の道民投票をして、道民の民意を最初に聞いてから維持解体の話に入るべきではないでしょうか。

そもそも、こんな薄っぺらい説明会で道民が理解し納得を得られると本当にお考えでしょうか。

再度、対面で鈴木知事も参加して頂きもっと沢山の参加者の中でオープンに徹底した説明会をすべきでしょう。

先ほどから繰り返させていただいて恐縮ですが、道といたしましては、記念塔のあり方につきまして、これまで道民の皆様から寄せられたご意見などを踏まえて慎重に検討して参ったところでございます。道議会に対しましては、平成29年11月に策定いたしました「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」や、平成30年に策定いたしました「交流空間構想」につきまして、ご報告をさせていただいたところでございます。

道といたしましては、皆様方の思いですとか、存続を求める団体の方々の主張を真摯に受け止めまして、繰り返させていただいておりますが、解体に至りました道の考え方につきまして、ご理解いただけるよう、努めてまいりたいと考えております。

先人達への感謝の塔をコストを理由に壊してしまえば、子どもたちは北海道の何を愛せばいいのでしょう。先人達への感謝の気持ち、北海道を愛する気持ちがなければ、いずれ北海道の経済にも影響を及ぼすことになるでしょう。小手先の諸刃の剣の経済対策より、未来を見据えた上で頑丈な経済政策のためにも、開拓の歴史を継承することが必要です。開拓の歴史を具体的にどのように継承していくのですか。

道といたしましては、百年記念塔について解体もやむを得ないと判断したところでありますが、その跡地におきましては、先人の思いを継承する未来志向のモニュメントを設置することとしております。

この記念塔に代わる新たなモニュメントにつきましては、はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の方々の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものと考え

ており、今後、皆様から幅広く御意見を伺いながらモニュメントについての概要を決定してまいりたいと考えております。

【説明会で未回答の質問】※回答を作成の上、ホームページで公表

維持管理が平成２３年に民間業者に突然変わった理由を知りたい。一般的には公平な客観調査をすると思われる学会に依頼すべき性質のものではないか。

保守管理計画策定調査書の平成２３年度分の業者が変わった理由の質問に答えていません。

比較する予算の表からして、解体ありきのロジックにしか見えない。新たな物の設置・広場の整備予算や、新たな物を作った際に掛かるであろう維持管理費も触れてはいない。大規模修繕費については、いくつかの業者から取っているのか。

新しいモニュメントに維持管理以上の費用がかかれば本末転倒です。新しいモニュメントがオリンピックのように予算が増え続けないと言い切れますか。後に維持管理した方が安かったとなった場合、解体を判断した責任は誰がお取りになりますか。

資料によれば、平成２９年度以降修繕がされていないようですが、現状維持でも５年間支障が無かったのでしょうか。

維持管理の業者について質問申し上げます。１９８０～２００１年は４度にわたり日本建築学会だったのが、２０１１年は民間企業となっています。
一．業者の選定方法は同一でしょうか
二．民間企業による調査には利害関係の面で問題が全くないと言い切れますか。

解体やむなしの根拠となる調査会社の調査資料を公開してください。

多額の税金がかかる事業です。より公共性が高く客観性が担保される学術機関に調査、報告を求めるお考えはありますか。また記念塔の状態について、道と違う見解を持つ専門家を招聘してオープンに協議するお考えはありますか。

百年記念塔について、今後も安全という専門家集団があります。道庁が出した結論と真っ向から反対の意見です。（北海道百年記念塔の未来を考える会）正反対の意見を出した専門家どうしの討論を道民の前でまず実施するべきではないですか。

「広報誌　北海道」に百年記念塔解体方針経緯について、H28年の検討開始から現在に至るまで一度も掲載されていません。それはなぜですか。大変な思いで開拓してきた道民の思いのこもった開拓100年記念塔解体の方針をまず、「広報誌　北海道」に掲載するというのが浄財＋税金で建設した道民に対するマナーです。ご回答ください。

【ご意見など】

道民ではない知事や官僚が金儲けの手段として百年記念塔の解体を決めた感じがします。

先程コロナ禍の説明会のあり方を検討して頂けるとの事　大変勇気のあった回答と評価致します。何故なら記念塔に思い入れを持って５０年歩んできたご老人は、このようにチャットを使って発言などできない事はおわかり頂けると思いますので、改めてコロナ禍の開催を希望します。
緊急倒壊の恐れはないのですから、コロナの終息を待って丁寧に説明してください。

道のＨＰは多層的でたどり着けないケースもありえます。公開についてはメール通知を要望します。